


《ミニブレーク165》 ジョコビッチのゲームプラン

監修/辻野隆三(MIRAI TENNIS ACADEMY) 作画/石川正順

Point ①

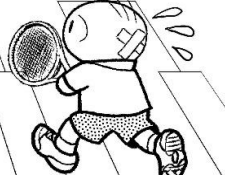
「常にリードした状態でゲームを進める」です

クレイコートのように長丁場の試合が予測される場合は心がけることはまず




そうすればゲームを取る時間が短縮され、トナメントを勝ち進むために必要な体力を温存できることにもなるのです


CHAMPION



第1セットの最初の試合ポイント



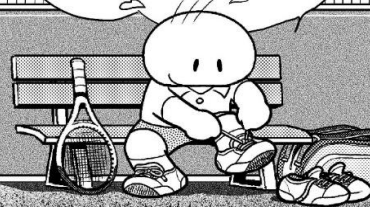
この対決シリーズでは錦織圭とジョコビッチの戦いを5回目に紹介しました




その試合ではハードコートで

- ① ダウン・ザ・ライン
- ② ボディへの展開
- ③ センターへのリターン

という作戦を用いたジョコビッチでした



今回はクレイコートで彼が錦織に對してどのように戦ったのかを紹介します



ジョコビッチがファーストサーブを入れ



錦織のアウト



第2セットの最初のサーブも

ワイドへのサーブからネットに出て



スマッシュでポイント



このように自分のサーブはゲームで必ず最初のサーブをワイドに入れ、オープンスペースを作りにきました

これはバックの得意な錦織にフオアを意識させる狙いがあります



ノバク・ジョコビッチ (セルビア)

1987年5月22日生まれ
身長188cm / 体重80kg
対戦時のランキング1位

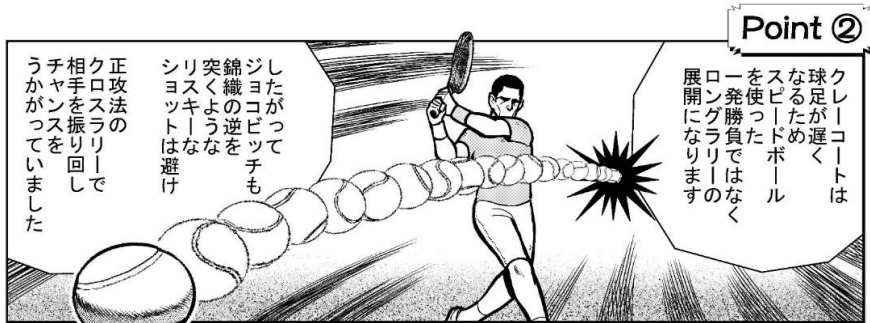


ATPツアーマスターズ1000
ローマ大会準々決勝

錦織 圭 (日清食品)

1989年12月29日生まれ
身長178cm / 体重74kg
対戦時のランキング6位



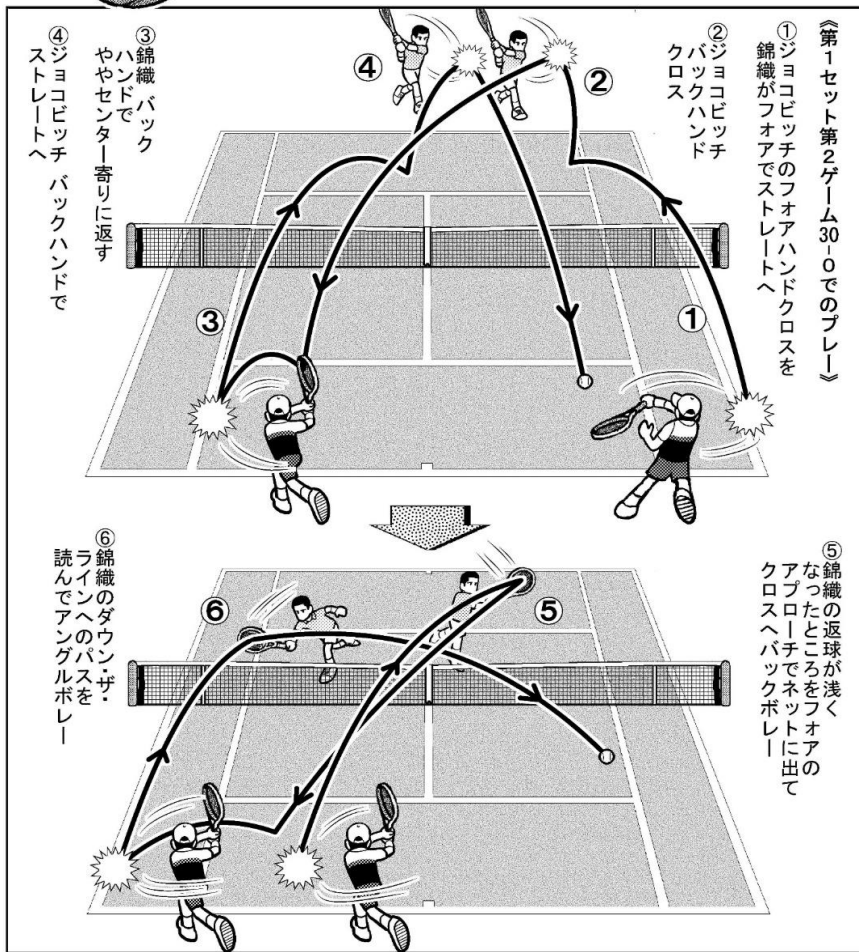


Point ②

クレイコートは球足が遅くなるためスピードボールを使った一発勝負ではなくロングラリーの展開になります

したがってジョコビッチも錦織の逆を突くようなリスキーなショットは避け

正攻法のクロスラリーで相手を振り回しチャンスをうかがっていました



《第1セット第2ゲーム30-0でのプレー》

① ジョコビッチのフォアハンドクロススを錦織がフォアでストレートへ

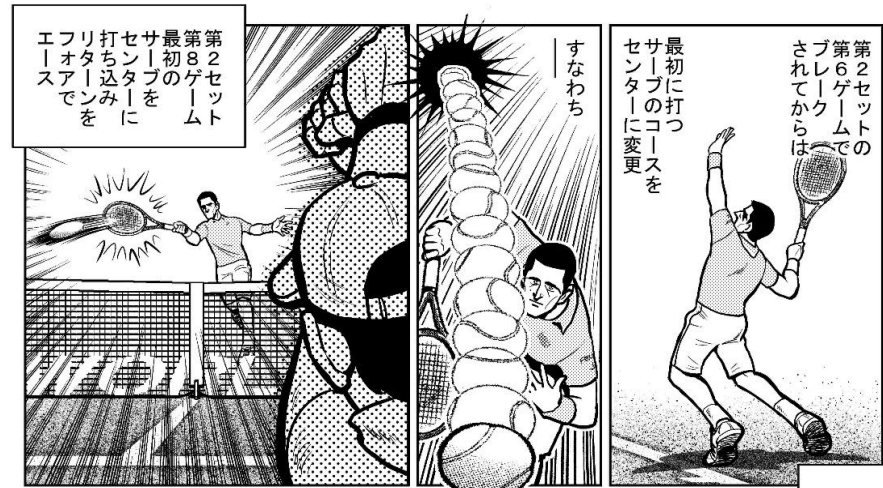
② ジョコビッチバックハンドクロス

③ 錦織バックハンドでややセンター寄りに返す

④ ジョコビッチバックハンドでストレートへ

⑤ 錦織の返球が浅くなったところをフォアのアップローチでネットに出てクロスへバックボレー

⑥ 錦織のダウン・ザ・ラインへのパスを読んでアングルボレー

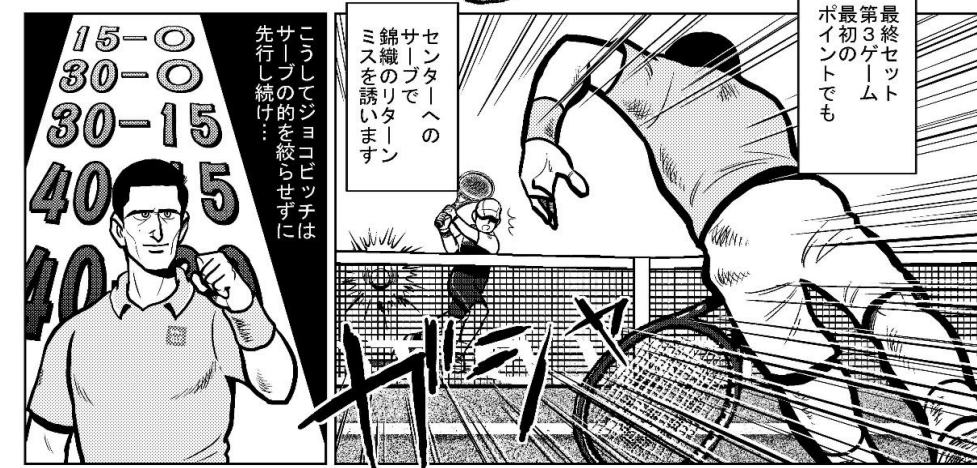


第2セット第6ゲームで最初に打つサーブのコースをセンターに変えずなわち

第2セット第8ゲーム最初のサーブをセンターに打ち込みをフォアでエース

最初に打つサーブのコースをセンターに変更

第2セットの第6ゲームでプレーからされてからは



こうしてジョコビッチはサーブの的を絞らずに先行し続け

センターへのサーブで錦織のリターンミス誘います

最終セット第3ゲーム最初のポイントでも

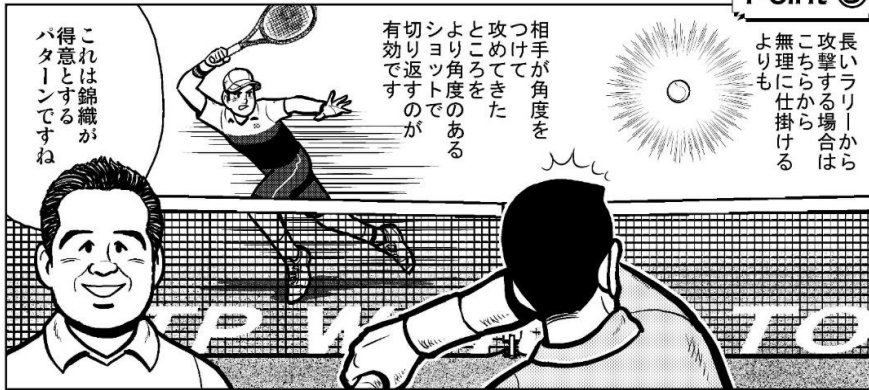


このことから最初のポイントのお分かります

その3回のうち2回はデュースに持ち込まれ1回はブレイクされています

結局この試合でジョコビッチが最初のポイントで落とされたのは3回だけ

Point ③



これは錦織が得意とするパターンですね

相手が角度をつけて攻めてきたところをより角度のあるショットで切り返すのが有効です

長いラリーから攻撃する場合はこちらから無理に仕掛けるよりも

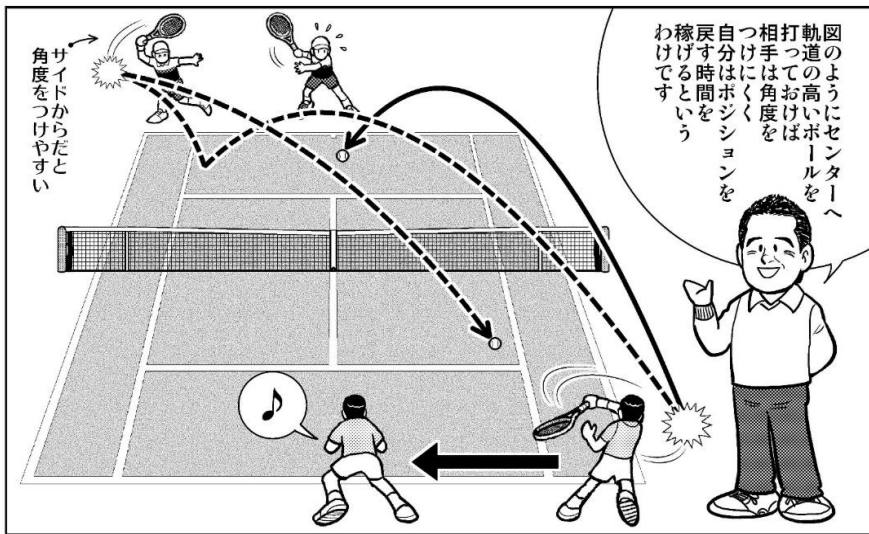


ここから少し下げた全部コート中央に返すようになります

最終セットの第4ゲームで錦織を積極的に振り回していたジヨコビッチは

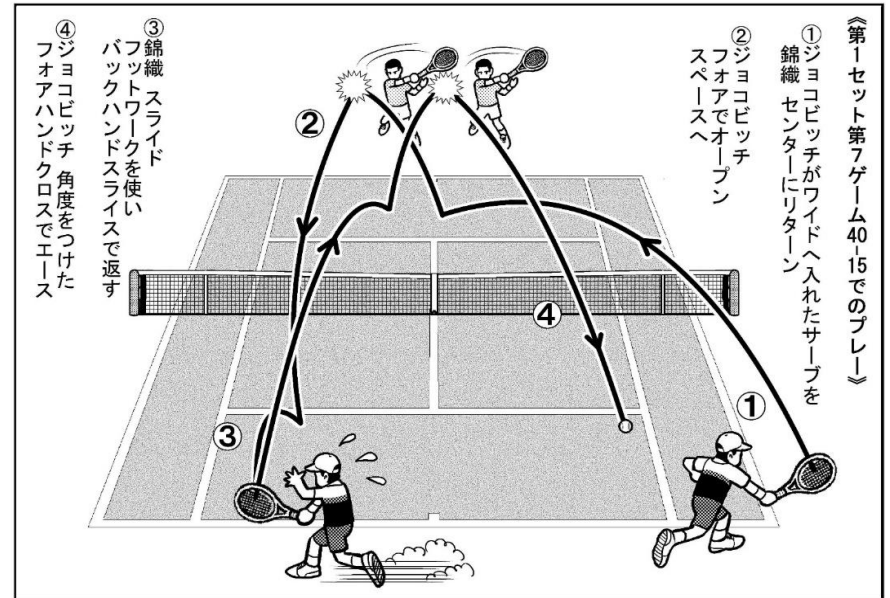


そこでジヨコビッチは錦織が角度をつけたショットを打ってきてもカバーできる工夫をしました



サイドからだと角度をつけやすい

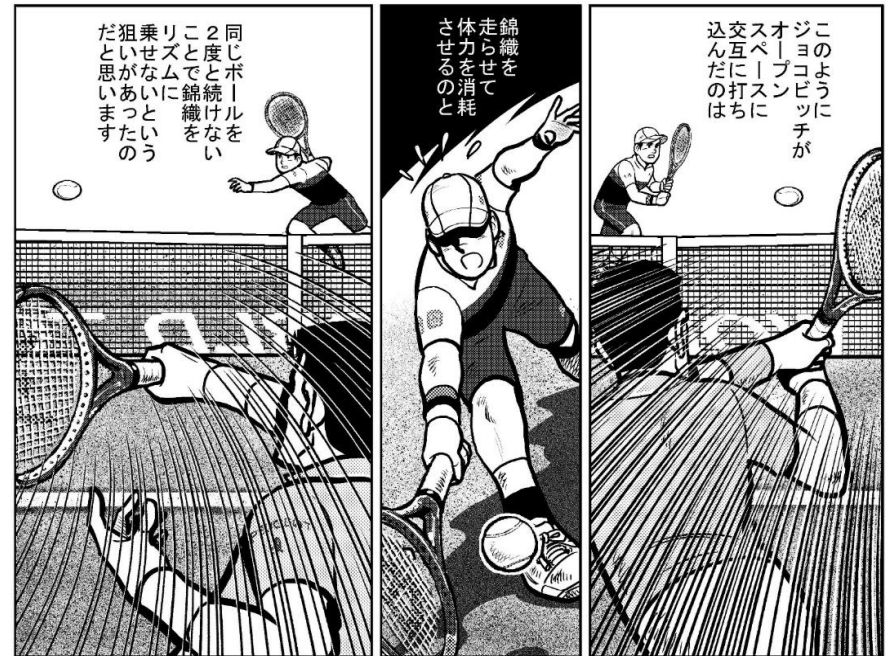
軌道のようにセンターへ打つて高いボールを相手は角度を自分にくくポジションを稼がす時間というわけですね



《第1セット第7ゲーム40-15でのプレー》

①ジヨコビッチがワイドへ入れたサーブを錦織 センターにリターン
②ジヨコビッチ フォアでオープンスペースへ

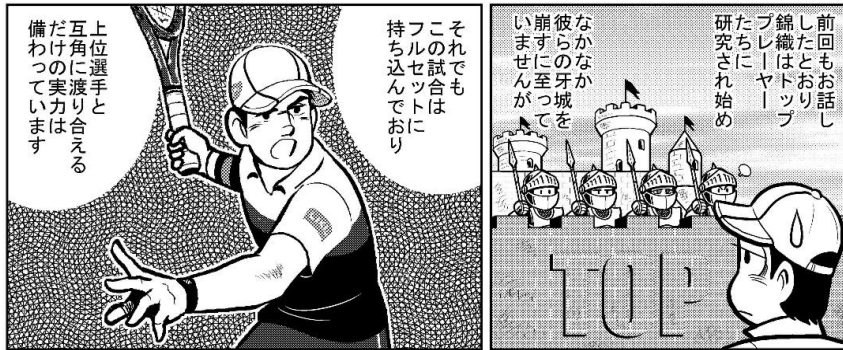
③錦織 スライドバックフックを使いバックハンドスライスで返す
④ジヨコビッチ 角度をつけたフォアハンドクロスでエース



このようにジヨコビッチがオープンスペースに交互に打ち込んだのは

錦織を走らせて体力を消耗させるのと

同じボールを2度と続けられないリズムで錦織を乗せないという狙いがあります



上位選手と互角に渡り合えるだけの實力は備わっています

それでもフルセットに持ち込んでおり

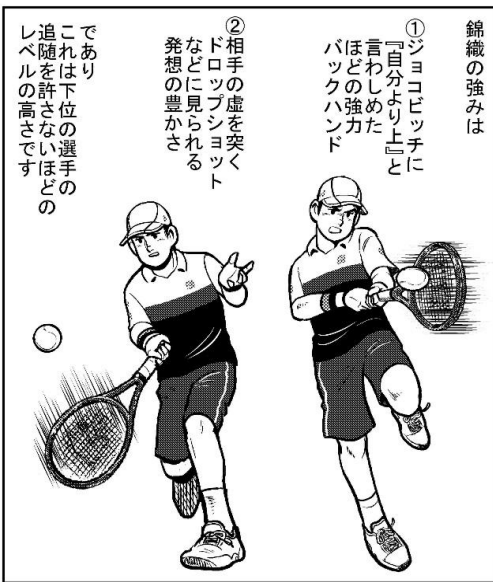
前回もお話ししたとおり錦織はトッププレイヤーたちに研究され始め

なかなか彼らの牙城を崩すに至っていませんが



したがってトーナメントの序盤に星を取りこぼすといったことがめつたにありません

これは長くトップ10を維持しさらに上を目指したための絶対条件なのです



錦織の強みは

① ジョコビッチに『自分より上』と**言わしめたほどの強力なバックハンド**

② 相手の虚を突くドロップショットなどに見られる**発想の豊かさ**

でありこれは下位の選手の**追従を許さないほどのレベルの高さ**です



【今日のポイント】

① サービゲームは最初のポイントを取れば先行する

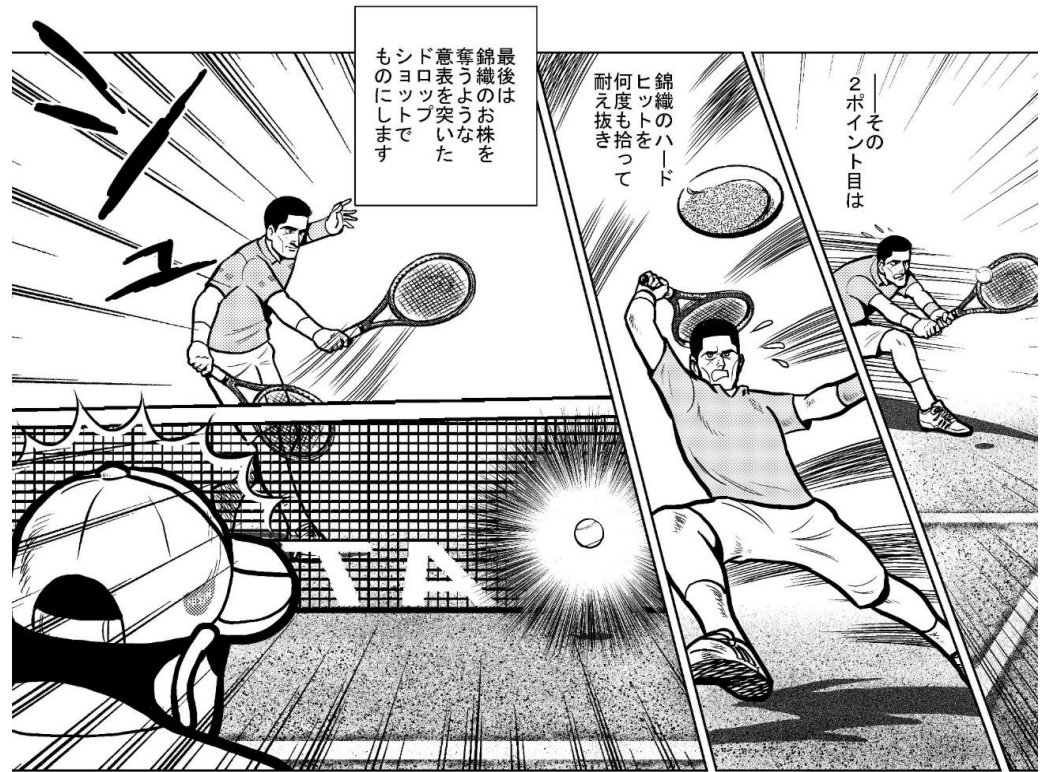
② 同じボールを2球繰り返すに相手をつまみかき

③ カウンターが得意な相手にはセンターハ撃める

錦織の課題を今後の課題を具体的に言えば「リターン力をさらに磨いて相手のセカンドサーブを積極的に攻撃すること」です

琥珀はここを輝くのだ

『おまちゃん』再び登場！



最後に錦織のお株を奪うような意表を突いたドロップショットでものにします

錦織のハードヒットを何度も拾って耐え抜き

その2ポイント目は



このブレイクで波に乗ったジョコビッチは3ゲームを連取し

6-3 3-6
6-1で勝利したので



根負けした錦織がネットに掛けてブレイクに



さらに同じゲームの30分も錦織の強烈なドロップショットを返り続ける